



WAFCA
WHEELCHAIR & FRIENDSHIP CENTER OF ASIA

CHARITY WALK 2023

11.13 ▶ 12.3

支援レポート

2023年11月13日～12月3日におこなったWAFCAチャリティウォーク収益により、
車いす支援事業を行うことができましたのでご報告を申し上げます。

収益： **960,840** 円

学校バリアフリー化： **1** 件

車いす寄贈： **25** 台

あなたの一歩がアジアの障がい児の一歩につながりました



ご支援いただきありがとうございました！



2024年3月 認定NPO法人
アジア車いす交流センター (WAFCA)

収入と支出

	単価	数	計(単位:円)
参加費	1,000	463名	463,000
参加者からの上乗せ寄付	1,000~2,000		72,500
協賛ゴールドコース	100,000	5社	530,000
協賛ブロンズコース	30,000	1社	30,000
SNSシェアキャンペーン	20,000	1回	20,000
収入の合計			1,115,500
Minpoアプリ使用料	200	463人	101,860 (税抜 92,600)
決済手数料、振込手数料	52,800	1回	52,800
支出の合計			154,660
収益			960,840

寄付の使途

内容	場所	単価	数	計(単位:円)
バリアフリー工事	インドネシア	200,000	1校	200,000
車いす寄贈	タイ	30,000	13台	390,000
車いす寄贈	インドネシア	30,000	12台	360,000
諸経費・雑費		10,840	1回	10,840
合計				960,840

バリアフリー工事に関して、現在着手しておりますが、この報告書では完成のお知らせができないことをご詫言申し上げます。工事の完成については、24年度の6月末までに改めてご報告いたします。



タイ：車いす寄贈レポート

ジェジェは生まれつき複数の重度障がいがある女の子です。筋肉の緊張が変化し、手や足の動きを制御することができません。また、会話もできません。両親は離婚し共に家を出てしまい、連絡もつかないそうです。そのため主にお祖父さんとお祖母さんが、市場で弁当を売る仕事をして生計を立てながら彼女の世話をしています。

これまでは少しの移動も困難だったため、週に1度学校の先生が家に来てリハビリやものを掴んだりつかまり立ちをする練習をしてくれていました。WAFCから車いすをもらい、今は車いすで外出する練習に励んでいるところです。

ジェジェは車いすが大好きで、座っている時は降りたくない素振りを見せます。外出することができるので、お祖父さんは毎日散歩に連れ出しています。家族みんな、**車いすがジェジェの人生を大きく変えることができる**と感じています。

WAFCではこの車いす寄贈を皮切りに、就学の支援も検討し支援を続ける予定です。



moon 6歳



ジェジェ 10歳

moonは生まれつき身体障がいのある男の子です。足の関節が固まっており、自分で靴やズボンを履くのが困難です。毎月病院に通っています。障がいの状況は深刻で、医師からは「彼が成長するにつれて、さらに関節を伸ばすことが困難になる可能性があり、将来的には膝下の関節を切る選択もある。」とされています。

車いすをもらう前は、親がmoonを抱えなければならず、移動は非常に困難でした。車いすをもらってからは、日常生活はるかに便利になりました。市場や友達の家、病院など自分で移動できるようになり、自信がついてきています。

今月末には7歳で、学校へ行く年になります。県の特別教育の先生は、彼の両親とともに、どの学校に通わせるかについて話し合いをしています。

「車いすのおかげで、進学をすることができる。」
家族もmoonも、とても喜んでます。



インドネシア：車いす寄贈レポート



ヴァネッサ 8歳

ヴァネッサは早産で生まれ、3ヶ月の時点で脳性まひと診断されました。歩くことはできないのですが、経済的な理由から車いすは購入できず、これまでは床を這って生活をしていました。お母さんは娘の介助のため専業主婦、お父さんはタクシーの運転手です。彼らは2×3メートルで家賃月4000円ほどの狭いアパートに暮らしています。

今回提供された**車いすは、ヴァネッサのパートナーとなり、通学や、病院でのリハビリをサポートしています。車いすをきっかけに、彼女の学ぶ意欲は燃えています。成績もよく、友達もできました。**

様々な制限に直面しながらも乗り越えようとする強い意志を持つことができました。ヴァネッサの変化に周囲も勇気ももらっています。

ジュンタは、9歳の脳性まひのある男の子です。実は車いすはすでに2022年にもらっています。今回新たな車いすを寄贈したのは、家の火災で車いすが使えなくなってしまったからです。ガス爆発から始まった火災によって、家は全焼し、逃げ遅れたジュンタは火の中から救い出されました。

命は助かったものの、周辺地域30戸が焼け避難生活を余儀なくされました。移動手段のない避難生活は過酷でした。WAFCAはジュンタに2台目の車いすの寄贈を決め、再びフィッティングから始めました。

現在、家はまだ建設中ですが、**新しい車いすのおかげで新たな一歩を踏み出すことができます。**



ジュンタ 9歳

車いすを受け取った子どもたちの写真



寝たきりの子どもが
まず前を向いて座ること。
WAFCALの支援の第一歩です。



筋力が弱い障がい児には
様々な体の支えがついた車いすを。
1人ひとりに合わせた提供を
最も大事にしています。



25人の障がい児が新たな人生の「一歩」を踏み出すことができました。

協賛企業様



MS&AD

あいおいニッセイ同和損保



DENSO
DENSO LOGITEM



デンソー労働組合

株式会社 デンソーユニティサービス



株式会社 ティーネットジャパン

おわりに

WAFCAの2回目となる「WAFCAチャリティウォーク2023」への温かいご支援とご参加、誠にありがとうございました。今回は初回を大きく上回る参加者数となり、その結果としてアジアの障がい児たちへのサポートもさらに増やすことができました。

皆様の一步一步が、障がいを持つ子どもたちに移動の一步を届け、未来への「一步」を踏み出すきっかけとなりました。日本、タイ、インドネシアの事務局一同、このような大きな「一步」を共に歩んでくださったことに、改めて感謝申し上げます。

WAFCAは今後もアジアの障がい児たちへの支援を継続して行ってまいります。まだ支援が行き届いていない子どもたちが多く存在します。チャリティウォークで初めてWAFCAと関わった方、初めてWAFCAを知った方が多くいらっしゃいます。初めての方も、長く支援してくださっている方も、今後も私たちの仲間として、WAFCAの活動をサポートしていただけることを心より願っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。この度のご参加、本当にありがとうございました。



2024年3月 認定NPO法人
アジア車いす交流センター (WAFCA)